

40 「持続可能な社会」を担う人づくりについて

(財務省、環境省)

【内容】

- (1) 持続可能な開発のための教育（ESD）を広く国内へ浸透・定着させるため、ESDの視点を取り入れた環境教育・学習や普及啓発などの取組を積極的に推進すること。
- (2) 「持続可能な社会」を担う人づくりを地域全体で一層推進するため、企業、大学、NPOなど多様な主体との連携・協働による、地域の特色を生かした人材育成などの取組を積極的に支援すること。

(背景)

- 本県では、2005年の愛知万博や2010年の生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）、2014年のESDに関するユネスコ世界会議を通して培われた県民の持続可能な社会に対する高い意識を地域全体の行動へと広げていくため、日常生活の中で行う地球にやさしい身近な環境配慮行動「あいちエコアクション」を推進している。
- また、ESDに関するユネスコ世界会議の成果を踏まえ、日本一の産業県であるという特徴を生かし、企業と連携した「かがやけ☆あいちサスティナ研究所」を2015年に立ち上げ、次世代の持続可能な社会の担い手となる大学生を対象に、ESDの視点を取り入れた環境面における「人づくり」に取り組んでいる。引き続き、より多くの企業や大学、NPOなどの多様な主体と連携・協働による地域全体での推進が必要である。
- さらに、愛知万博10周年記念事業として開催した「インタープリター愛・地球ミーティング」の成果を受け、2016年から未就学児やその保護者などを対象に、自然体感プログラムを子育てや学びの場に取り入れ、幼いうちから自然に触れ、学び、気づきを与えることで、環境のことを考え、行動する「人づくり」に取り組んでいる。
- このような持続可能な社会に向けた地域の特色ある取組により「環境首都あいち」の実現を図っているところであるが、これらの取組をさらに推進させるため、国においては「ESDに関するグローバル・アクションプログラム」実施計画に基づく取組や地域のニーズを踏まえた「ESD活動支援センター」の体制整備を推進することが期待される。

(参 考)

○ 平成 28 年度における「環境首都あいち」を担う「人づくり」事業

1 あいちエコアクションの推進

県民参加型の環境イベント「エコアクション推進フェア」の開催や、県内の環境学習施設のネットワークである愛知県環境学習施設等連絡協議会（AEL ネット）を活用して、多様な環境学習の機会を提供することにより、県民の自発的なエコアクションを促進する。

AEL（あえる）ネット：県内の学習施設等が協力して、地域における環境学習の推進を図るために平成 20 年 3 月に設置。平成 28 年 8 月現在 162 施設等が加盟。

また、気軽にエコアクションを学び、実践へとつなげることをサポートするため、誰もが活用できるウェブサイト「エコリンクあいち」を運営し、エコアクションの意識づけを促すとともに、環境学習施設等の情報提供、活動団体の活動情報をネットワーク化し、団体間の交流の場を提供する。

2 持続可能な未来のあいちの担い手の育成

(1) 大学生を対象とした取組「持続可能な未来のあいちの担い手育成事業費」

「かがやけ☆あいちサスティナ研究所」を核として、地域の中で環境活動の輪を広げていくことのできるリーダーを養成するプログラムや、学生・大学間のネットワーク化を図る交流シンポジウムを企業、大学、NPOなどの多様な主体と連携・協働して実施し、地域全体で「持続可能な社会」の担い手を育成する。

項 目	リーダー養成プログラム	交流シンポジウム
開催時期	平成 28 年 6 月～11 月（13 回）	平成 28 年 11 月（1 回）
参加者	県内大学生 40 名、企業等 10 社	県内大学生を中心に 300 名
内 容	・「持続可能な社会」をテーマにした基礎講座の開催 ・協力企業から与えられた環境に関する事業活動等の課題研究 ・活動状況の発信	・著名人による講演 ・リーダー養成プログラムの受講者による成果発表 ・開催結果を YouTube などで配信

(2) 未就学児童等を対象とした取組「インタープリター自然体感推進事業費」

森の案内人「インタープリター」の協力を得て、自然の素晴らしさや不思議を発見する自然体感プログラムなどの自然と向き合う体験の提供や、自然体験に関する指導者の育成を実施する。

項 目	自然と向き合う体験の提供事業	指導者の育成事業
内 容	・未就学児童と保護者を対象とした自然体感プログラムの実施 ・保育所、幼稚園を対象とした 1 日の自然体感プログラムの実施	・保育士、幼稚園教諭を対象とした自然体験研修の実施 ・インタープリター（森の案内人）養成研修を実施